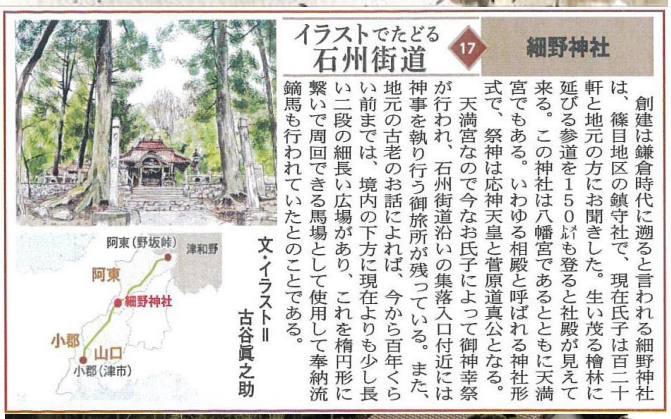
今日のイラスト 622　「 イラストでたどる石州街道⑰　細野神社 」　　古谷眞之助

実はこの神社は山口県教育委員会の「歴史の道調査報告 5 石州街道」では全く触れられていないのだが、語り部の会で行った「第二次石州街道研修会」で立ち寄り、その長い参道が立派だったことと、かつてそこでは奉納の流鏑馬が行われていたと聞かされて迷わず採り上げた。そのため、神社の由来については本文に書いていること以上のことはよく分からない。ここに書いたことの大部分は、まさにこの神社の氏子の一人である語り部仲間に調べていただいたものなのである。小写真は神事が執り行われている御旅所のシーンで、その語り部仲間から借用した「ふるさと今昔第 25 号」（ 阿東郷土史研究会編 ）からの転載である。この冊子の発行年は 2021 年だから、今現在も神事が続けられていると思って間違いないだろう。また、この冊子には子供神輿の写真も掲載されている。



イラストでたどる石州街道 17 細野神社

創建は鎌倉時代に遡ると言われる細野神社は、篠目地区の鎮守社で、現在氏子は百二十軒と地元の方にお聞きした。生い茂る檜林に延びる参道を150㍍も登ると社殿が見えて来る。この神社は八幡宮であるとともに天満宮でもある。いわゆる相殿と呼ばれる神社形式で、祭神は応神天皇と菅原道真公となる。

天満宮なので今なお氏子によって御神幸祭が行われ、石州街道沿いの集落入口付近には神事を執り行う御旅所が残っている。また、地元の古老のお話によれば、今から百年くらい前までは、境内の下方に現在よりも少し長い二段の細長い広場があり、これを楕円形に繋いで周回できる馬場として使用して奉納流鏑馬も行われていたとのことである。

文・イラスト＝古谷眞之助

石州街道は正直なところ、それほど資料があるわけではないから、勢いこのような地元の郷土史グループの資料に頼らざるを得ない。それだけに郷土史関係の資料は重要で、阿東郷土史研究会の地道な調査研究には頭が下がる。ところで、話は突拍子もなく飛んでしまうが、私は山口県航空史というとてもマイナーな分野で、これまで３冊の本を著してきた。この３冊で山口県航空史は完璧にカバーしていると自負しているが、たぶん、地区ごとの郷土史も同じような役割を果たしていると言って良いだろう。地道で細かな地元史の掘り起しと、それを記録として残すことはとても大切なことである。AI、IT などという時代になって、歴史を学ぶことの評価は下がりつつあると危惧しているが、まずそれを学ぶことこそが全ての分野の進歩の基本だと信じて疑わない。最先端の分野にいる人こそまず歴史を学ぶべきだと言うと、言い過ぎになるだろうか。もしこれを否定する人がおられるなら、強く反論したいと思う。（ 2023.8.20 記 ）